

▼中田遺跡の現在の状況



▼出土品：菊川式土器の一部



▼出土品：山茶碗の一部



●市内大兼地内

市民プールぶるる

至池新田

★大兼配水場

県道相良浜岡線

埋蔵文化財包蔵地 中田遺跡

History

キラリを再発見

高位置の弥生集落

中田遺跡は、標高約85mの比木地区中田原の丘陵上にあります。昭和55年6月に茶畑から弥生～古墳・鎌倉時代の土器片が採集され、埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

この遺跡は高い場所に存在することから、弥生時代の特徴ともいえる水田経営には向いていません。さらに、周辺に水辺もないことから、生活するにはとても不便だったと考えられます。一方で、新野川・朝比奈川・箴川流域には、弥生時代後期後半(3世紀)に、それぞれ集落が存在していたことが判明しており、中田遺跡は新野川・朝比奈川流域の集落、箴川流域の集落の中継点として機能していた可能性があると考えられています。

これらのことを踏まえると、この時代にはすでにしっかりとした地域社会が形成されていたと考えることができます。

Atomic

暮らしと原子力

津波対策工事の進捗状況

中部電力は、福島第一原子力発電所の事故を受け、これまでに得られた知見を反映し、施設内に津波対策を施しています。発電所内への浸水防止対策として実施する「防波壁設置工事」

は、9月22日より本体準備工事が始まりました。現在は、防波壁施工時に土留めの役割をする鋼矢板の打ち込みや支障物撤去、地盤改良の工事中です。

建屋内への浸水防止対策で実施する「緊急時海水取水設備設置工事」は、工事で使用する大型重機を10月13日に現場へ搬入し、組み立てています。

浜岡原子力発電所の津波対策工事の概要と進捗状況は、中部電力のホームページで確認できます。

URL http://www.chuden.co.jp/energy/hamaoka/hama_pic_kup/tsunami_taiou/jishin_touhoku/index.html



大型クレーン搬入



鋼矢板の打ち込み作業